

Ham Radio Deluxe

VK3CKC's Program User's Guide Introduction

「挿絵は略した」 日

本語翻訳 JA0SC

Contents(目次)

Introduction

Downlords 省略

Ham Radio Deluxe

PSK31 Deluxe 省略

Mapper 省略

Guide Contents(案内目次)

Getting Started

Main Window

File menu

Connect

Disconnect

Logbook

Print Setup

Exit

Edit Menu

Undo

Redo

Copy Freq.

Copy Mode

View Menu

Toolbars

Status Bar

Advanced

以下略

Band Menu

Manager 一部略

Band Up

Band Down

Out of Band

以下略

Favourites Menu

Add

New Folder button

以下略

Scanning Menu

-->

以下略

Tuning Menu

Enter Frequency

Fixed steps
Mouse Wheel
以下略
Tools Menu
略
DX Cluster
以下略

Ham Radio Deluxeは、Simon Brown (HB9DRV) と Peter Halpin (PH1PH)により創られたCATコントロール・プログラムである。これは、<http://hb9drv.ham-radio.ch>から自由なダウンロードで提供される、4つの総合的なプログラムである。全ての総合的なプログラムは、1つのダウンロード・ファイルに含まれる。ソフトは、ラヂオ・アマチュアとショートウェーブ・リスナーに対しては、無料である。**登録は、料金なしで随意である。**著者は、この包みがどんなに人気がある何か意見があれば、登録して問い合わせられる。特殊な無線機は、サポートされないけれど、それは、デジタル制御のみである。他のソフトの構成要素を依然使える。

2004年10月現在のサポートされている無線機。

Elecraft: - K2.

ICOM - IC-703, IC-706, IC-706MkII, IC-706MkIIG, IC-707, IC-718, IC-725, IC-726, IC-728, IC-729, IC-735, IC-736, IC-737, IC-738, IC-7400, IC-746, IC-746Pro, IC-751A, IC-751A (Piexx), IC-756, IC-756Pro, IC-756ProII, IC-761, IC-765, IC-775DSP, IC-7800, IC-781, IC-821H, IC-910H, IC-R10, IC-R20, IC-R75, IC-R8500.

Kenwood - R-5000, TS-140S, TS-2000, TS-440S, TS-450S, TS-480, TS-50S, TS-570, TS-60S, TS-680S, TS-690S, TS-790, TS-850, TS-870, TS-940S, TS-950, TS-B2000

Ten-Tec - Argonaut, Jupiter, Orion, RX-350

Yaesu - FT-100, FT-1000D, FT-1000MP MkV, FT-600, FT-817, FT-840, FT-847, FT-857, FT-890, FT-897, FT-900, FT-920, FT-990.

以下略

Guide Contents (ガイド内容)

Getting Started

最初のスタートで、ハム・ラヂオ・デラックスは、多くの選択可能なオプション及びパラメーターを備えたセット・アップ・ウィンドウを表示するでしょう。説明テキストは提供されるが、これはオプションの一般的な説明である。

Company - あなたの無線機のメーカーを選びます。標準の選択ボタンでは、Elecraft、ICOM、Kenwood、10-tecおよびYaesuです。

®**Demo-o-Matic**® - Demo-o-Matic会社の選択は、K2、オリオン、TS-2000、TS-480およびTS-570等の

デモ無線機からの選択を規定するだろう。無線機に接続することなしに、クラブ・デモおよび調査のために使用することができる。

Radio- 上で選ばれた会社からサポートされた、ドロップダウンモデルリストから包括的なモデルを選ぶ。

COM Port - ドロップダウン(drop down)したリストから、自動検出されたCOM 1およびCOM 2の選択する。

Speed - ここに示された選択は、上記のあなたの無線機選択に依存するでしょう。もし、無線機の検出がサポートされていない場合、現在の無線機がセットされたスピードに対応した選択がなされなければならない。

CI-V - これは、ICOM無線機のインターフェースだけに使われる。

CTS -ケンウッドモデルで必要とする「CTS」を有効にする。

DTR -もし通常電力供給とインターフェースケーブルが必要ならば、Comポートが開かれるとき「DTR」ラインを有効にする。

RTS -.もし通常電力供給とインターフェースケーブルが必要ならば、Comポートが開かれるとき「RTS」ラインを有効にする。

Connect - 選択したcom ポートを開く、そして制御するため無線機と通信する。

Help - ウィンドウズ上でオプション をセットするためのテキストファイル。

最初に無線機をOnしてConnectをクリックする。Ham Radio Deluxe のメインプログラムの画面がかえってくるだろう。もし、このエラーメッセージが毎回出たら、それは多分無線機をOnするのを忘れたのであろう。

Main Window

このメインウィンドウから、多くの特徴ある利用ができる。ツールアイコンは、多くの表示ボタンと表示器で利用される。マウス・カーソルをボタンと表示器に置きなさい。もしそれがツールアイコンなら、その動作が表示される。

Main Frequency Display - メイン周波数ディスプレイは、このイメージで7.070.960MHzを表示している。これを変更する方法は、多数ある。以下のとおり。

このイメージは、数字6の上下に水平の記号が表示されている。もし、上の記号をクリックすれば、数字は繰り上がり、下の記号をクリックすれば、数字は繰り下がる。また、マウスを必要な数字に当て、マウスを滑らせて他の数字をクリックし同様に繰り上げ、繰り下げをさせることができる。これは、周波数表示されている全ての数字で利用できる。

”#”マークは、周波数表示エリアの右クリックで、そしてチューニング増で表示されるだろう。

周波数表示区域内を右クリックすると画面がドロップダウンして”Fixed Steps”窓が表示される。例えば、選択されたステップ”1kHz”をクリックすると#記号が表示される。もし”#”マークの上の横記号をクリックしたなら、周波数は、選択されたステップ”1kHz”で繰り上げられるだろう。もし、下のマークをクリックすると繰り下げられる。現在のチューニングステップ周波数は、すぐ下に”# = Fixed step = 1kHz”と表示されるだろう。

周波数表示区域で右クリックすると、チューニングステップを持ち上げるのみならず、もしチューニングステップが現在選択されているなら、Disable(消去)オプションは、クリックすると消える。そして、#記号は消えるだろう。ステップサイズの正蜜な倍数に合わせる上、下させるオプションもある。

Fine I and Fine II sliders - チューニング周波数は、7.109.970MHz で、これは2つの赤い(白)スライダボタンで表示される。左か右のどちらかにスライダをドラッグすると、チューン周波数が変わるだろう。マウスのクリックを離すとスライダは、跳ね返り元に戻るだろう。

下のあるいは”Fine II”スライダは、右クリックして、”Cuning Range...”を選択して、次に”Show Fine II”をチェックかこれを再チェックするのどちらかで、表示されまた消える。これは、もし”Fine II”が必要とされないなら、チューンレンジのもうひとつの部屋を考慮するだろう。

訳者注:「Fine (I)の右端”H”をクリックすると下方に”Show Fine II”が表れるので、選択するとFine IIがFine (I)の下に表示され再度チェックすると消える」また、”Tuning”をドロップダウンさせても”On, Off”ができる。もし”Out of Band”サウンドが有効なら、バンドの端にスライダを動かすと、適切な指示が聞けるだろう。

Band Buttons - バンドボタンは、マウスを当てクリックすることで、バンドを変更することが出来る。実際の表示は、バンド表示をセットアップすることによるだろうし、ここに示されたようになり別のものになるだろう。The band indicators beneath the sliders will update in sympathy with the band segment selector buttons.

スライダ直下のバンド指示器は、バンド部分(線分)選択ボタンで、連動して変化するだろう。

S Meter - 周波数表示のすぐ下の水平の目盛バーは、”S”メーターである。”S”メーターの数値は、ラインの左に数字でこれまた表示される。”S”メーター表示で使われるカラーは、プログラムオプション部門で個人の希望に合わせてられる。註:右から2番目のアイコン。

Clock and Date Display - 日,時ディスプレイを左クリックすると、日,時の構成を、スクリーンに表示される位置もまた修正するためオプションウィンドウ”Clock Format:Left or Right”が示さ(表れる)れるだろう。プログラムは、コンピューターから時間情報を取り込むだろう。正確な時間とタイムゾーンをセットするのは、絶対的である。

Band Title Display - もしバンド名表示(直下の周波数)上で左クリックすれば、他のバンド設計を選択する小さいバンド選択ウィンドウで示される。

Sliders and Markers - メインバンドディスプレイのスライダは、周波数をドラッグで変えられる。周波数変更は、むしろ過程であって、大きな周波数変更は手近かではない。

バンドラインの上のこの小さい場所での表示器は、好きな周波数目印表示器である。異なった色は、すばやく保存する周波数に要される。表示器上にカーソルを置くと、表示のように結果的に周波数の説明となる。左側のイメージに表示されたボタンは、無線機で種々なファクションの選択あるいは通信で使われる。これらの通信では、ボタン自身の名前から事実明らかである。プログラムの中の全ファクションは、接続される全ての無線機に利用できない。あるものは、無線機特有のものである。

Status Window - 地位ウィンドウディスプレイは、接続した無線機で用意された情報によるだろう。指示は、短刀直入であり、カラーはツールメニューからプログラムオプションで変えられる。

Band Up or Down - バンド定義の中で利用できるチューニング部分は、もし必要ならデスプレーで上下を選択できる。Ctrl U (Up) or Ctrl D (Down) で選択するか、スクリーンの両サイドの両方向矢印をクリックしてできる。

Fine I and Fine II Tuning - Fine I and Fine II のバンド拡張レンジの右終端に、2つの選択ボタンがある。最も高い位置のボタンは、マウスホイールのステップの大きさをセットするのに使われる。低い方のボタンは、バンド拡張範囲をセットするのに使われる。また低い方のボタンは、Fine IIレンジを表示するかどうかの選択に利用される。右をクリックは、制御がチューニングレンジかホイールステップ選択メニューを表示するかどちらかである。

The Fine II range provides a coarser control than the Fine I range. Fine IIのレンジは、Fine Iのレンジよりカーソル制御に利用される。

Right Click - この複数選択ウィンドウは、右クリックでスクリーンの、事実上どのクリアエリアにも表示される。表示されたオプションの詳細は、他の部門を見なさい。

File Menu

Connect - もしあなたがスタートした時、無線機がプログラムの接続にくまなく接続されなかったなら、あるいは、スタート後、接続を切ったならば、"Connect"オプションが開かれるだろう。あなたが多くの無線機を選んでセットアップしたならば、このウィンドウはそれらを表示するでしょう。

選択された無線機は、コンピューターに接続するためにS Wonしなければならない。

新しいボタンは、リストに加える他の無線機の接続する輪郭をセットして有効にする。Version 3.0, Build 503は、新しいボタンでアクセスされる、@Demo-o-MaticR、デモ用の無線機 K2, Orion, TS-2000, TS-480 and TS-570 を含む。詳細はGetting Startedを見なさい。"Remove"ボタンは、リストから現在の接続の状態を抹消する。

Disconnect - このオプションは、PC (パソコン)と無線機との接続を簡単に切断するだろう。そして、プログラムを終了しないで、活動を終わらせるだろう。

これは、あなたが無線機を変更したければ、それ新しくする前に外部接続を完了させるようにしなければならない。

Logbook - ログオプションは、総合的な内容を表示する。これはまた、それ自体の主メニュー項目からも利用できる。あるいは、ツールバー・アイコンでもできる。HRD (Home Radio Deluxe)は、DDE処理を経て他のログプログラムとも結合できる。大小のログディスプレイがある。

小さなものは、すばやく見れる最終百件を表示する。それは迅速にナビゲイトできる。さらに事実少さなスペースで、処理することができる。

ログが、そのような広い範囲のオプションと容易さのようなものを持っているとともに、それは個別のページで上手くカバーされている。より詳細については、ログのメニューを参照してください。

Print Setup - このオプションでは一般的なWindowsのプリント設定の対話方式の窓を持っている。

Exit - このオプションは、無線機のスイッチを切り、プログラムを終了する。

プログラム終了時に、ハードドライブ、無線機のディスプレイ、DXクラスタおよびログに保存されるでしょう。

Edit Menu

Undo - このオプションは、元に戻すことができる何かをしたなら、そのみに用意されている。例えば、もし違うバンドを選択したとか、違う好きな周波数を選択したなら、前のバンド、周波数にバック、復帰するため”Undo”を使える。言い換えれば、最終の選択を無効にするのである。

Redo - このオプションは、前の選択に戻す”Undoオプション”を使ったときのみ用意されている。事実、このオプションは最終の”Undo”を元に戻すか、無効にするのである。

Copy Freq -

このオプションは、現在表示された周波数をどこか外のウィンドウのクリップボードのコピーする。

Copy Mode - このオプションは、現在表示されたモードをどこか外のウィンドウのクリップボードのコピーする。

View Menu

Toolbars - 色々なプログラムのツールバーの選択できる表示を規定するもの。4つの選択をするツールバー・オプションがある。

Edit Toolbar - メインプログラム・ウィンドウの編集バー”Undo, Red”を表示する。

Main Toolbar - メインプログラム・ツールバーを表示する。ここでのほとんどの部門は、またメインプログラム・メニューからも用意されている。

Programs Toolbar - これら2つ”Mapper, PSK31 Deluxe ”のプログラムを早く、簡単な方法でアクセスする地図とPSK31 Deluxeバー表示する。

Logbook Toolbar - 2つのオプションを規定する。左のアイコンは、ログに周波数を加える高速な手段を規定する。右のアイコンは、シングル・クリックで、ファイルにログのバックアップする、またログ配置ウィンドウにディレクトリーを指定する。

このツールバーは、ログが開いている時に表示される。左から右に向かって、印刷、印刷プレビュー、ログへの追加、入室、ログ編集、ログ削除、地図の区画格子目、画面の更新、コラム幅の調整、欄の割付、資料集の保存、ログ配置。

Toolbar Text - 各ツールバー・ボタンの下の同一テキストの表示を交互に変更する。テキストを表示する上部の類似したイメージと、このイメージを比較しなさい。ツールバーは、もしテキストが移動されるならば、より小さい部屋を定める。しかし、もちろんそれらの機能を記憶しておかねばならないだろう。

Status Bar - 画面の最下部の状態バーの表示を交互に切り替え使用する。状態バーは、通常ボタンとメニュー選択の必要な情報を表示する。

Advanced Options - このオプションは、すべての無線機で利用できないだろう。表示例のようにFT-847では利用(使われる)されない。しかし、Ten-Tec Orion, IC-703 それに IC-756 Pro IIでは利用される。このオプションは、メイン画面で表示したくないこれらを含むディスプレイの表示、数値の調整、スライダーを配置するのが用いられる。

以下略

Full Screen - 全画面モードの表示を切り替える。左側のツールバー・ボタン”Full Screen”は、変わるべきものである。

以下略

Bands Menu

バンドマネージャー・オプションは、左手ウィンドウで開く。オプションは、通常貴方のバンド・レイアウトを定義する。

以下略

Band Up - バンド表示区域でバンドを引き上げ(160m - 10m)を選択する。周波数は、新しい選択に変えられるだろう。左手の映像はその前後を示す。バンド上昇選択前の指示が40Mバンド部分を、そして選択後に30Mバンド部分を示す。

Band Down - 上記ように変化して、この場合は逆の方向に操作する。

Out of Band Warning

Out of Band- バンド警告を定義する。

Enable - バンド警告を有効にするため、このオプションをチェックする。

Change - 何時でも現用定義されたバンドから、あるいはバンドに同調して、演奏している別々の音源ファイルを分割できる。

Play - 選択した演奏している音源ファイルを聴いて、ボタンをチェックする。

Display -他のバンドを選択する、バンド選択ウィンドウを示す。また、ウィンドウは、メインツールバーの選択ボタンで活動的にする。バンドマネージャーは、この選択ウィンドウで利用される。周波数表示の下の選択バンド名"160m - 10m(Region1)"を左クリックすると、小さいバンド選択ウィンドウもアクセスする。

Bandsread

Bandsread 25 kHz to Bandsread 500kHz - 表示されたバンドのバンド拡張表示器を修正する。これは表示されたバンド正確なチューニングの目の粗さを変換する。

Bandsread Undo - バンド拡張オプションで作られたであろう最終のバンド拡張修正を逆にする。

Favourites Menu

Add - 現在表示されている周波数を好きなものに追加できるであろうウィンドウを表示する。

その周波数は、表示された好きなどんなホルダーでも追加できる。または、新ホルダーボタンと飛んで、新ホルダーを作り出すことができる。

以下略

Scanning Menu

--> - このオプションは、5kHzから500kHzの7つの周波数間隔の選択でスキャンングウィンドウを規定する。"From: and To: "周波数は、最近チューニングした周波数から、デフォルトで選択した周波数間隔の最後にバンドをアップした周波数であるだろう。

Freq: - これは、通常現在チューニングした周波数であり、他の関係するスキャン明細記述を通常セットする。直接周波数を編集するか、ウィンドウが開いている間メインディスプレイをチューニングするかどうかにする。そして、"txt box"に新しいチューニングした周波数を落とすため"cur"をクリックする。

Scan: - これは、スキャン範囲を予めセットするのを認めるだろう。範囲は、ドロップダウン矢印からアクセスできる。"> > >"をクリックすると選択範囲を当てるだろうが、範囲選択自身から自動的に起きて見える。

From: and To: 上記で設定した範囲。

Direction: -
"Up or Down"のどちらかを選択する。

Step Size: - 10Hzから25Hzまでを選択する。

Speed: - 横スライダーはスキャンスピードを変える。左にずらすと遅く、右にずらすと早くなる。あまり早くセットしないよう注意しないと、受信機が次の増加でストップするかもしれない。

Threshold: - このスライダーは、スキャンを止める信号レベルの域をセットする。右にスライダーを

Resume: - これは、スキャンを再始動させる条件をセットする。シグナルストップ後に"Auto"、スキャンを再始動させたくない"None"、"1、3、5と10秒後の選択がある。

Repeat: - 連続するか、一回のみかの選択をする。

Start and Stop - これら2つのボタンは、明白である。
以下略

Tuning Menu

Enter Frequency -

容易にキーボードで周波数を直接入力することができる。自動をチェックするなら、周波数は自動的に入力できるだろう。さもないければ、"Spplly"ボタンを単純にクリックしなさい。

Fixed Steps -

固定されたステップで、周波数ディスプレイにチューニングをトグルで表示することができる。この簡単な操作は、周波数の右端に"#"を表示することも表示できるだろう。用いられている現在のステップは、ディスプレイ周波数の下に表示される。

Mouse Wheel -

マウスホイールを回転するときチューニングステップ定義するプログラムオプションのマウスホイール選択を表示する。各々"Fine"と"Hot"でCWと他のモードに異なったステップが用意されている。マウスホイールが、ステップをの速度を速める間、シフトあるいはコントロールキーを押す。

以下略

Tools Menu

ここまで略

.

DX Cluster -

DXクラスター情報表示を規定する。

ツールチップに従って左側に以下の7つのボタンがある。"Start Display Updates", "Refresh Display", "Set Refresh Interval", "Font Sizeの増減, DXクラスターホームページへのアクセス、それに"ホームページへのあなた自身のDX Spotの送付"。積極的なインターネット接続はオペレートするためのこれらボタンあるもののため、必要とされるだろう。

DXクラスターでスプレは、メインプログラムツールバーのDXクラスターボタンで、またアクセスされるだろう。
以下略